

令和8年度 高知県文化芸術振興ビジョン

評価委員会（第1回） 次第

日時：令和8年6月12日（金）15:00～17:00

場所：オーテピア高知図書館 4階 集会室

開 会

議 事 高知県文化芸術振興ビジョンの改定について

① 改定に向けたスケジュール

② 高知県文化芸術振興ビジョンの後期4年間の取組の総括

③ 高知県文化芸術振興ビジョン改定の方向性（案）及び次期ビジョンの骨子（案）

文化振興課 説明（45分）

意見交換（60分）

閉 会

《配布資料》

【資料1】改定スケジュール

【資料2】ビジョン後期4年間の取組の総括

【資料3】高知県文化芸術振興ビジョンへの提言
（文化政策ラウンドテーブル高知）

【資料4】ビジョン改定の方向性

【資料5】主な改定内容

【資料6】第2期高知県文化芸術振興ビジョンの骨子（案）

【参考資料1】ビジョン策定にあたっての私見（高井アドバイザーより）

【参考資料2】欠席者からの意見

高知県文化芸術振興ビジョン評価委員・専門アドバイザー名簿

(任期:委嘱の日～令和9年3月31日)

(五十音順、敬称略)

No.	氏名	所属	出欠
評価委員			
1	荒金 心鈴	高知香南ジュニアオーケストラ講師 高知ジュニアオーケストラ講師	出席 (所用のため途中出席)
2	川鍋 達	すさきまちかどギャラリー館長	出席
3	小林 真理	国立大学法人東京大学大学院 人文社会系研究科文学部教授	出席 (リモート)
4	新開 祐二	(一社)日本旅行業協会中四国支部 高知県支部 支部長	欠席
5	谷 智子	高知市教育委員	出席
6	中平 雅彦	株式会社高知新聞社 代表取締役社長	出席
7	西田 幸人	元高知市立自由民権記念館長	出席
8	松本 志帆子	藁工ミュージアム 学芸スタッフ	出席
9	吉澤 文治郎	土佐経済同友会特別幹事 ひまわり乳業株式会社代表取締役社長	欠席
専門アドバイザー			
1	高井 健司	評価士 元地方独立行政法人大阪市博物館機構事務局次長	出席 (リモート)
2	野村 政之	信州アーツカウンシルゼネラルコーディネーター (一般財団法人長野県文化振興事業団 アーツカウンシル推進局)	欠席

次期・高知県文化芸術振興ビジョン(R9～) 改定スケジュール

		改定に向けた主要イベント
R7 年度	12月	文化施設との意見交換会(第1回)
	1月	<R7.12月～R8.1月>(ビジョン改定に向けた意見交換)
	2月	◆第2回ビジョン評価委員会<2/17> (意見交換会の内容、改定スケジュールの共有)
	3月	
R8 年度	4月	ビジョン改定に向けた若者等への意見照会
	5月	
	6月	◆第1回ビジョン評価委員会<6/12> (現ビジョン総括、新ビジョン骨子) 6月議会委員会報告<7月上旬> (現ビジョン総括、新ビジョン骨子)
	7月	文化施設との意見交換会(第2回) <7月中旬> (新ビジョン骨子について)
	8月	◆第2回ビジョン評価委員会<8月中旬> (新ビジョン素案)
	9月	文化施設との意見交換会(第3回) <9月上旬> (新ビジョン案の作成に向けて)
	10月	
	11月	◆第3回ビジョン評価委員会<11月上旬> (新ビジョン案)
	12月	12月議会委員会報告<12月中旬> (新ビジョン案報告) パブコメ募集(12月～1月)
	1月	
	2月	◆第4回ビジョン評価委員会<2月中旬> (新ビジョン最終案)
3月	2月議会委員会報告<3月中旬> (新ビジョン策定報告) 新ビジョン策定	
R9 年度	4月	新ビジョン施行

※上記スケジュールは現時点の予定であり、今後変更になる可能性があります。

高知県文化芸術振興ビジョン 後期4年間の取組の総括



文化生活部 文化振興課

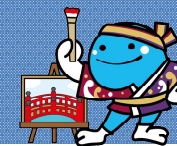
■ 評価基準

- 「A」・・・目標を上回る成果があった
 - ・定量評価：目標達成率100%以上
 - ・定性評価：事業遂行時に通常よりも多くの成果があった

- 「B」・・・概ね目標どおりの成果があった
 - ・定量評価：目標達成率75%以上100%未満
 - ・定性評価：事業が問題なく遂行された

- 「C」・・・目標に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要
 - ・定量評価：目標達成率50%以上75%未満
 - ・定性評価：事業遂行時に問題等があり、改善のための工夫や努力が必要

- 「D」・・・事業の遂行が適正に行われたとはいえず、大いに改善を要する
 - ・定量評価：目標達成率50%未満
 - ・定性評価：事業の遂行が適正に行われたとはいえず、大いに改善を要する



主要な取組とその成果

①文化芸術活動の創造と発信

(1) 高知県芸術祭の充実

- メインイベントをはじめとする各種イベントの開催

【参加事業数】 R4 : 85 → R7 : 108

(R7目標 : 110) <評価 : B>

(2) 「よさこい高知文化祭2026」の開催

- ①大会の開催に向けた準備を行うとともに、市町村等が実施する地域の文化資源を活用した取組を支援

【事業実施数】 全34市町村で約250事業を実施予定

【総参加者数目標 (R8)】 100万人

- ②大会の気運醸成に向けた広報活動の展開

【プレイベント実績 (R7)】 来場者数 : 約11,000人

【インスタフォロワー】 約5,000フォロワー

【広報ボランティア「よさぶんひろめ隊」 隊員数】 約4,400人

②民間団体主体の文化芸術活動への支援

(3) 団体や個人の発表の機会のさらなる創出

- 中山間地域において文化芸術を発表する場や触れる機会を創出

- ・中山間地域アーティスト派遣事業の実施

【派遣実績】

R6 : 派遣先 4 地域・ 5 箇所に派遣、参加者198名

→ R7 : 7 地域・ 18 箇所に派遣、参加者1,102名

<評価 : A>

見えてきた課題

(1) 高知県芸術祭の充実

- 人口減少の影響により、参加団体及び観覧者数が将来的に減少する恐れ

(2) 「よさこい高知文化祭2026」の開催

- 大会を通じて生まれる「文化芸術の力を活かした地域コミュニティの活性化」等のレガシーを活用した取組が必要

(3) 団体や個人の発表の機会のさらなる創出

- 人口減少の影響により、中山間地域と県中央部における文化芸術に触れる機会等の地域間格差が今後さらに拡大する恐れ

施策の強化に向けた大きな方向性

I 人口減少下においても文化芸術に触れることができる環境づくり

- 文化芸術に触れる機会の地域間格差の縮小に向けた取組 等

II 「よさこい高知文化祭2026」のレガシーを活用した取組の推進

- 大会を契機に生まれた地域のネットワークを活かした取組の推進 等

基本方針1 文化芸術を通じた県民の心の豊かさの向上（県立文化施設の利用促進）

主要な取組とその成果

①文化芸術活動の創造と発信

(1) 県立文化施設の利用促進

○各館の強み・特性等を活かした魅力的な企画展示等の実施

①美術館

・集客力のある巡回展の開催や本県出身作家を中心とした独自のコレクションを活かした企画展示を実施

【R7目標：年間観覧者数 50,000人】 <R4評価：C、R5評価：A、R6評価：C、R7評価：B（41,186人）>

②文学館

・全国巡回展となった「ムー展」をはじめ、集客力のある企画展示を積極的に実施

【R7目標：年間観覧者数 22,000人】 <R4評価：A、R5評価：A、R6評価：A、R7評価：B（18,542人）>

③歴史民俗資料館

・歴史系の総合博物館としての強みを活かし、本県の歴史・考古・民俗・美術工芸に関する企画展示を実施

【R7目標：年間観覧者数 27,000人】 <R4評価：B、R5評価：C、R6評価：C、R7評価：B（22,933人）>

④坂本龍馬記念館

・龍馬生誕190年の機会を捉えた収蔵品展や、桂浜エリアに立地する館の特性を活かした観光誘客を積極的に展開

【R7目標：年間観覧者数 130,000人】 <R4評価：C、R5評価：C、R6評価：B、R7評価：B（119,641人）>

⑤高知城歴史博物館

・山内容堂没後150年の機会を捉えた企画展示や、高知城と連携した誘客促進を展開

【R7目標：年間観覧者数 85,000人】 <R4評価：C、R5評価：C、R6評価：C、R7評価：B（72,343人）>

⑥牧野植物園

・「らんまん」と連動したSNS等での広報や、魅力を高めるための園の磨き上げを実施

【R7目標：年間入園者数 220,000人】 <R4評価：A、R5評価：A、R6評価：A、R7評価：A（274,011人）>

⑦県民文化ホール

・県民の芸術文化活動の拠点として、貸館事業を実施するとともに、障害の有無等に関わらず誰もが参加できる多様な主催事業を展開

【R7目標：主催事業数 21回以上】 <R6評価：A、R7評価：A（44回）> ※R4,5は目標未設定

見えてきた課題

○県民のニーズを捉えた魅力的な企画展の開催など、来館者のさらなる獲得に向けた取組が必要

施策の強化に向けた大きな方向性

I 来館者のさらなる獲得に向けた取組の推進

- 県民のニーズを捉えた魅力的な企画展の開催
- より付加価値の高いサービスの提供



主要な取組とその成果

①地域に伝わる文化財の保存と継承

(1) 文化財の保存及び活用に関する支援

- ①文化財保存事業費補助金による文化財の保存・継承支援 <評価：B>
- ②高知城の保存・活用に向けた取組
・石垣カルテの作成等による耐震対策の推進 <評価：B>
・耐震対策事業基本計画の策定
- ③文化財レスキュー体制の構築に向けた取組
・文化財防災に関する研修会の開催等

(2) 県史編さんの推進

- ①編さん体制の構築
・県史編さん委員会、県史編さん編集委員会の開催
・専門部会の設置及び開催
【部会設置数】 R4：3部会 → R7：7部会
- ②歴史資料調査・編集の実施
- ③「とさぶし」や「ときのあかし」等による本県の文化の広報・啓発 <評価：B>

②地域固有の文化資源の活用

(3) 郷土芸能の保存と伝承

- ①伝統芸能の発表機会の創出に向けた取組の実施
- ②伝統芸能の担い手確保に向けた支援の実施
【担い手支援事業 派遣数】
R6：59名 → R7：91名 <評価：A>

見えてきた課題

(1) 文化財の保存及び活用に関する支援

- 地域の文化財の保存・継承に向けた支援に引き続き取り組むとともに、大規模災害を見据え、特に文化財建造物や高知城の耐震対策を計画的に進める必要
- 文化財防災センターによる支援の受援体制の整備など、文化財レスキュー体制の構築が必要

(2) 県史編さんの推進

- 教育・観光分野などでの県史のさらなる活用が必要

(3) 郷土芸能の保存と継承

- さらなる人口減少を見据え、幼少期に伝統芸能に触れる機会の創出など、担い手の育成とともに、郷土愛醸成にもつなげる取組を検討する必要

施策の強化に向けた大きな方向性

I 人口減少や大規模災害等を見据えた、地域固有の文化の維持・継承・活用に向けた取組の強化

- 文化財レスキュー体制の構築など、大規模災害を見据えた取組の推進
- 伝統芸能などの地域固有の文化の維持・継承に向けた取組を強化
- 地域固有の文化を活用したキャリア教育等による若者定着に向けた取組の推進



主要な取組とその成果

① 県民の参加意欲の促進

(1) 幼少期から文化芸術に触れる機会の充実

○県立文化施設による教育普及事業のさらなる活用を促進

【美術館】R4：22件889人 → R7 28件1,090人
(R7目標：20件) <評価：A>

【文学館】R4：26件1,649人 → R7：61件
2,632人 (R7目標：100件) <評価：C>

【歴史民俗資料館】R4：28件988人
→ R7：17件1,039人 (R7目標：10件) <評価：A>

【坂本龍馬記念館】R4：10件585人 → 55件
3,056人 (R7目標：30件) <評価：A>

【高知城歴史博物館】R4：119件4,027人
→ R7：83件3,519人 (R7目標：30件) <評価：A>

② 生涯にわたり楽しむことのできる環境づくり

(2) 高齢者、障害者の文化芸術活動の促進

① 高知県オールパワー文化展の開催

【開催実績】R4：出展数408点・入場者数2,401人
→ R7：出展数391点・入場者数2,499人

② 高知県障害者美術展（スピリットアート展）の開催

【開催実績】R4：展示数245点・入場者数2,371人
→ R7：展示数242点・入場者数4,144人
<評価：A>

③ デジタル技術の活用による文化芸術を身近にする環境づくり

(3) デジタル技術やメディア等の効果的な活用

○オンライン講座の開催や文化施設のSNSの活用による広報の展開

見えてきた課題

(1) 幼少期から文化芸術に触れる機会の充実

○中山間地域など、県中央部以外の学校のさらなる活用促進に向けた取組が必要

(2) 高齢者・障害者の文化芸術活動の促進

○継続して文化芸術活動を行うことができる環境づくりが必要
○「よさこい高知文化祭2026」を通じて生まれる「相互理解の深化」等のレガシーを活用した取組が必要

(3) デジタル技術やメディア等の効果的な活用

○デジタル技術の活用による鑑賞機会の確保が必要
○付加価値向上につながる最新のデジタル技術の活用が必要

施策の強化に向けた大きな方向性

I 幼少期から文化芸術に触れることができる環境づくり

○地域間格差の解消に向けた、中山間地域における教育普及活動のさらなる充実 等

II 「よさこい高知文化祭2026」のレガシーを活用した取組の推進

○障害の有無などに関わらず多様な人々が文化芸術に触れることができる取組の推進

III デジタル技術のさらなる活用

○デジタル技術の活用による鑑賞機会の確保や、付加価値向上に繋がる最新のデジタル技術を活用した取組を強化



主要な取組とその成果

①観光や産業等の振興につながる文化芸術の活用

(1) 文化芸術を活用した観光振興

- 本県の文化的な強みを活かした観光キャンペーンの推進

【県外観光客入込数 R4：370万人 → R7：457万人】
 <評価：B>

(2) 「まんが王国・土佐」の推進

①まんが甲子園の開催

【応募校数】R4：179校 → R7：184校
 (R7目標：350校) <評価：C>

②まんがを活用した人材育成の推進

・まんが・アニメ教室の開催実績 ※アニメはR7～

【開催実績】R4：15回237名 → R7：11回205人

・まんが塾や出張作画教室の開催 (まんがBASE)

【まんが塾】

開催回数：R4：7回開催 → R7：5回

延べ参加者数：R4:22名 → R7：14名

【作画体験教室】

開催回数：R4：232回 → R7：234回

参加者数：R4：1,830人 → R7：2,302人

<評価：B>

②文化芸術の振興を担う人材の育成と連携

(3) 文化芸術を担う人材の育成

- 文化人材育成プログラムの実施

【実績】R4：11回415名 → R7：基礎編4回70名、
 スタートアップ講座1回8名、スタートアップ編採択
 数3個人 <評価：A>

(4) 多様な主体によるネットワークの構築

- 県内大学と連携し、伝統芸能の担い手として大学生を派遣 <評価：B>

見えてきた課題

(1) 文化芸術を活用した観光振興

- 「よさこい高知文化祭2026」を契機とした文化芸術の活用による観光コンテンツのさらなる磨き上げが必要

(2) 「まんが王国・土佐」の推進

- 県内コンテンツ産業の担い手となる若者を育む取組が必要

(3) 文化芸術を担う人材の育成

- 人口減少の影響により、地域における様々な文化芸術の担い手が減少する恐れ

(4) 多様な主体によるネットワークの構築

- 伝統芸能の保存継承に向けた大学等との連携など、一部ではネットワークの構築が進みつつあるものの、全体としては取組が十分ではない

施策の強化に向けた大きな方向性

I 文化芸術の活用による地域振興に向けたさらなる取組の推進

- 文化的な強みを活かした観光振興施策の推進 等

II 地域における様々な文化的な活動を支える人材の確保

- 文化芸術や伝統芸能の担い手の確保 等

III 文化芸術振興組織(アーツカウンシル)の機能強化

- 関係機関同士のネットワークの構築・拡充



主要な取組とその成果

①文化芸術振興組織(アーツカウンシル)の充実

(1) 高知県芸術祭の充実 (再掲)

- メインイベントをはじめとする各種イベントの開催

【参加事業数】R4:85 → R7:108

(R7目標:110) <評価:B>

(2) 高知の文化芸術の情報収集及び発信

- 文化芸術ホームページ(芸事図鑑)の充実

【HPへの新規登録数(団体・個人)】R4:25 → R7:15

<評価:C>

(3) 団体や個人の発表の機会のさらなる創出

(再掲)

- 中山間地域において文化芸術を発表する場や触れる機会を創出

・中山間地域アーティスト派遣事業の実施

【派遣実績】

R6:派遣先4地域・5箇所に派遣、参加者198名

→ R7:7地域・18箇所に派遣、参加者1,102名

<評価:A>

(4) 文化芸術を担う人材の育成 (再掲)

- 文化人材育成プログラムの実施

【実績】R4:11回415名 → R7:基礎編4回70名、

スタートアップ講座1回8名、スタートアップ編採択

数3個人 <評価:A>

見えてきた課題

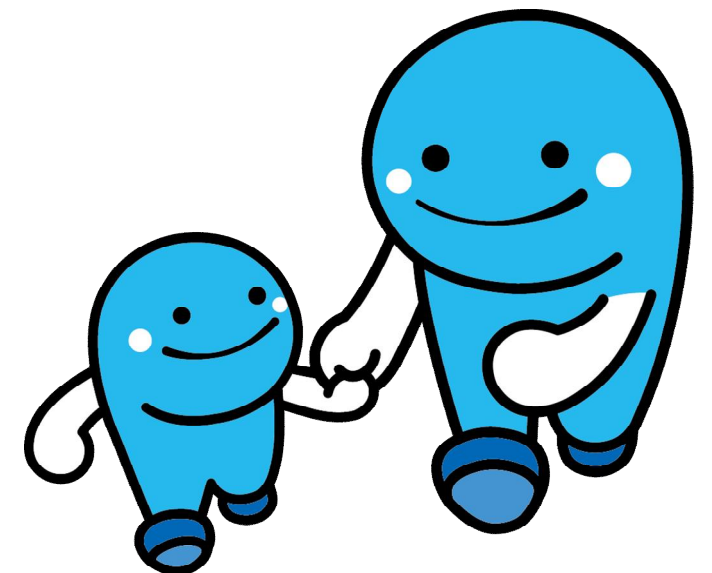
①文化芸術振興組織(アーツカウンシル)の充実

- 地域づくりや産業振興、福祉、教育など様々な社会課題の解決に向けたさらなる機能強化が必要

課題解決に向けた方向性

I 文化芸術振興組織(アーツカウンシル)の機能強化 (再掲)

- 文化芸術による地域づくりや産業振興、福祉、教育など様々な社会課題の解決に資する取組の推進
- 関係機関同士のネットワークの構築・拡充 (再掲)



2026年5月15日

高知県知事
濱田 省司 様

文化政策ラウンドテーブル高知
共同代表 福島 幸宏
楠瀬 慶太

高知県文化芸術振興ビジョン（2026年度改定）への提言

当ラウンドテーブルは、2025年の高知県における公社等外郭団体のあり方見直し、特に県立文化施設の指定管理者公募化を契機として発足しました。この間、シンポジウムやオンラインでの勉強会等を開催し、県内外の多くの参加者ととも高知県の文化政策に関する議論を重ねてきました。

これまでの議論で明らかとなった課題は、高知県における文化政策が体系的に確立されていないという点に集約されます。個別の施策や事業は存在するものの、それらを有機的に結びつけ、県政全体の総合政策と関連して位置づける明確な理念や方針が十分に示されているとは言い難く、結果として各施策の前提となる課題設定が不明瞭となり、その持続性や実効性に課題を残しています。

2026年は、2017年に策定された「高知県文化芸術振興ビジョン」の改定年度にあたります。文化振興にかかる条例を有しない高知県において、当該ビジョンは県全体の文化政策の根拠となるものです。また、文化施設、特に博物館に焦点をあてれば、2022年に博物館法が抜本的に改定され、2026年には「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」も全面的に改定されました。また、県民が日常的に世界水準の文化芸術や学術成果に触れにくい地理的環境にあり、県外との格差、県内での格差はますます拡大しています。

したがって、改定にあたっては、現今の状況を踏まえつつ、総合政策の中に次期ビジョンを位置付けることによって、県政の施策体系に文化政策を適切に組み込むことが必要です。これにより、その推進を担う県・市町村・県民・文化施設・文化団体・教育機関・企業等の各主体にとって、実効性を伴う行動指針として機能することが期待されます。さらに、主体的な取り組みを促進し、地域課題の解決や文化芸術を基軸とした新たな価値創出に資するものと考えます。

以上を踏まえ、高知県を取り巻く多様な状況を的確に捉えた課題設定に基づき、体系的に構築された、真に「高知県文化芸術振興ビジョン」としてふさわしい内容へと改定されることを強く望みます。そのため、現行ビジョンの課題や改定にあたり議論すべき点を整理し、下記のとおり提言します。

(1) 高知県としての文化政策を確立すること

県全体の総合政策に文化芸術振興ビジョンを位置付けるとともに、地域課題の解決や新たな価値創出の基軸となることなど、ビジョンの目的をより多様かつ明確に確立すること。

(2) 体制の充実を図ること

各文化施設の体制充実、支援組織の強化、専門人材の配置及び施設間の実務的な連携組織の構築により、文化政策の推進体制を拡充すること。

1. 現行ビジョンの主な課題

(1) 県全体の計画（高知県元気な未来創造戦略）との関係が不明瞭

- ・現行の文化芸術振興ビジョンは、高知県における他の計画との関係が記載されていない。そのため、高知県全体の将来計画における自身の位置付けが曖昧である。またビジョンが何に立脚しているのかが不明である。
- ・文化政策は文化芸術だけで完結するものではなく、その他の様々な領域と関係する。現行ビジョンはこれら他領域との連動性を欠くため、県全体で有機的取り組みが行われているとは言い難い。
- ・高知県の最重要計画である「高知県元気な未来創造戦略」には文化芸術についての具体的記述がほとんどなく、文化芸術振興ビジョンについても全く触れられていない。文化芸術は高知県全体の将来計画において明確な位置付けを与えられておらず、これでは十分な文化芸術政策は期待できない。

(2) ビジョン構成上の問題

- ・論理構造に混乱が生じている。例えば、基本理念が「文化芸術の力で心豊かに暮らせる高知県」で、その下に「4つの基本方針」があるが、基本方針1「文化芸術を通じた県民の心の豊かさの向上」は基本理念と同じ文言の繰り返しであり、基本理念と基本方針との論理的関係が混乱している。基本理念＝ビジョン策定の目的、基本方針＝目的実現のための手段としての明確な区別が必要である。
- ・基本理念「文化芸術の力で心豊かに暮らせる高知県」が曖昧で、「文化芸術の力で心豊かに暮らせる」とはどのような状態か不明である。目的が曖昧なままでは目的実現のための方策も立案できず、これが前述の混乱の原因となっているのではないか。
- ・現行ビジョン12頁以降の「主な施策」は、具体・抽象様々なレイヤーのものが混在している。
- ・以上のように、現行ビジョンは構成上の問題を抱えている。まずはビジョンの目的を明確にし、構成を全面的に見直す必要がある。

(3) 文化施設に関する記載が不十分

- ・現行ビジョンの記載内容は、県庁各課が直接行う事業が中心となっており、重要な実行主体である各文化施設の事業に関する記載が少ない。
- ・当ラウンドテーブルが県内諸施設職員にアンケート調査を行った結果、現場職員が仕事をする上でビジョンがあまり意識されていない、ということが判明した【別紙】。現行ビジョンは現場での実効性を持ちえておらず、その原因は、各文化施設に関する言及の不足にあると考えられる。

2. 改定の方向性

(1) 高知県の特性・現状を踏まえ、高知県における文化芸術の範疇を適切に定めること

- ・2022年の改正博物館法では、社会教育法のみならず、文化芸術基本法に基づくと定められた。そのため、文化芸術基本法の基本的施策に加え、さらに博物館法の対象となる動水植物・産業・自然科学等も高知県としての文化芸術の範疇に含め、文化芸術の保存、継承、振興等の観点からその施策を設定すること。

(2) 高知県を取り巻く状況を適切に把握し、課題設定及び課題解決に向けた体制を明記すること

- ・人口減少、少子高齢化等の社会状況及び世界や国、高知県内の動向等による文化芸術への影響について適切に分析し、課題設定を行うこと。
- ・文化芸術の現状や、予算・人材・施設等の把握に努め、課題解決に資する体制を適切に構築すること。

(3) 県が定める総合計画及び各部局が定める計画等との関係を整理し、ビジョンの目的を明確にすること

- ・人口減少対策及び観光、防災、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等に関連する計画等と次期ビジョンの関係を整理すること。
- ・適切な課題設定に基づき、SWGs (Sustainable Well-being Goals) や DEI (Diversity&Equity&Inclusion) の推進等、高知県における文化芸術振興及び次期ビジョンが取り組む方向性を明示し、社会課題の解決に資する施策を展開すること。

(4) 次期ビジョンにおける文化施設のあり方を検討すること

- ・文化施設を文化芸術振興の推進及び社会課題の解決等に取り組む拠点と捉え、収集保存・調査研究・展示・教育普及・地域連携等に関連する諸施策を適切に設定すること。
- ・県民の創造的活動に資するため、日常的に世界レベルの文化芸術や最新の研究に触れられるよう、文化施設がその機能を十分に発揮するための環境を整備すること。
- ・「文化観光推進法」に基づく拠点計画あるいは地域計画を策定し、文化観光拠点施設として適切に機能させること。
- ・文化芸術振興に資する外部資金確保及び専門人材確保のため、文化施設を科学研究費補助金の応募資格を持つ「研究機関」とすること。
- ・文化施設の博物館登録を推進すること。
- ・文化施設の老朽化に伴う長寿命化、建替、再編、統合等について適切に検討すること。

(5) 学校教育と文化芸術振興の関係を明記すること

- ・文化施設等が有する各種資源を学校教育に活用する施策を設定すること。
- ・文化芸術に触れ親しむ機会の地域格差解消に努め、担い手創出等に資する施策を設定すること。
- ・教員負担の軽減及び専門性確保のため、アーティスト及び学芸員等の専門人材が学校教育と連携する体制を構築すること。

(6) 資料保全や地域文化等の保全に対する取り組みを明記すること

- ・人口減少等による平時の資料散逸や地域文化等の消滅に対応するため、関係機関・団体と緊密な連携体制を構築すること。
- ・災害等の発生時に地域所在資料や公の施設等が所蔵する資料の保全が速やかに行われる体制を構築すること。
- ・災害等に備え、共同収蔵庫等の資料の収蔵スペース確保を検討すること。
- ・デジタルコンテンツの安定的な保全を可能にするデータストレージの整備を検討すること。

(7) 中間支援機構及び各種協議体等の拡充・連携を強化すること

- ・次期ビジョンの推進にあたり、県と協働して事業等を執行し、又は提案し、県と政策実現に向け連携する団体を「政策連携団体」等の名称により対等に位置づけること。
- ・関係各部局や関係機関との連携を強化すること。
- ・次期ビジョンの推進にあたり、関係者による協議体の設置を進めること。

(8) ビジョンが掲げる各施策の評価指標を明示し、確実かつ適正に評価すること

- ・ビジョン全体の活動を可視化するため、定量的に数値化できる項目は積極的に数値化すること。その上で、定性的評価を大幅に取り入れることで、ビジョンを推進する各主体が多様な活動を行えるように配慮すること。
- ・評価の実施にあたり、評価手法、評価者、評価サイクルを明示し、確実に実施すること。

高知県文化芸術振興ビジョン 改定の方向性

1 急速に進む人口減少に対応した文化政策の推進

【現状】

- 高知県の総人口（国勢調査）は、直近で64万3,437人（R7）となり、この10年間で84,839人（▲11.6%）減少。また、34歳以下の若年人口は186,885人（R2）となり、この10年間で47,956人（▲20.4%）減少しており、総人口に比べ若年人口の減少が顕著 出典：総務省「国勢調査」
- 中山間地域における若年人口は、この10年間（H22～R2）で18,626人（▲26.7%）減少し、特に中山間地域において若年人口の減少がより顕著 出典：総務省「国勢調査」
- 県内の出生数は、3,079人（R7）となり、この10年間で1,973人（▲39.1%）減少 出典：厚生労働省「人口動態統計」
- 少子高齢化や過疎化による担い手不足の影響で、県内の伝統芸能や地域のお祭りの約4割（385/981件）が中断または廃絶状態

出典：高知県民俗芸能緊急調査（R元～R3）

【課題】

- 人口減少は、文化芸術活動や伝統芸能の担い手、観客・鑑賞者の減少など、文化芸術分野においても深刻な影響を及ぼしており、それらの影響への対策が必要



【改定の方向性】

- 文化芸術の力を活かした地域活性化
 - ・文化観光の推進 等
- 地域固有の文化を活用したキャリア教育等による若者定着
 - ・若者の郷土愛醸成に向けた取組の推進 等
- 様々な分野におけるデジタル技術のさらなる活用
 - ・博物館資料のデジタルアーカイブ化
 - ・デジタルアートの活用促進 等

2 「よさこい高知文化祭 2026」のレガシーを活用した取組の推進

【現状】

- 総参加者数 100 万人を目標に掲げ、県内全市町村において、文化振興に向けた 250 以上の多彩なプログラムを展開
- 大会を契機として、誰もが鑑賞しやすい環境の整備や、地域の新たなネットワークの構築、本県の文化資源を活かした観光誘客につなげる

【課題】

- 大会を契機に、県内各地で高まる文化振興に向けた機運を一過性のものとせず、レガシーとして活用した取組が必要

【改定の方向性】

○ 県内各地で高まる文化振興に向けた機運を最大限活かした取組を推進

- ・ 市町村との連携の仕組みの活用
- ・ 本県の文化資源を活かしたさらなる観光誘客の促進 等

3 国の動向を踏まえた対応

【現状】

■ 文化芸術関連の法改正

- ① 文化芸術推進基本計画（第 2 期）の策定（R5. 3 月）
 - ・ 「文化芸術を通じた地方創生の推進」や「デジタル技術を活用した文化芸術活動の推進」など、「文化芸術と経済の好循環」の実現に向けた 7 つの重点取組を推進
- ② 博物館法の改正（R5. 4 月）
 - ・ 博物館資料のインターネット上での公開やさらなる活用を見据え、博物館資料のデジタルアーカイブ化を明記
 - ・ 他館や地域の多様な主体との連携・協力など、地域の活力向上への寄与を努力義務化

【課題】

- 国の動向と連動した文化振興施策の推進が必要

【改定の方向性】

○ 文化芸術の力を活かした地域活性化（再掲）

- ・ 文化観光の推進 等

○ 様々な分野におけるデジタル技術のさらなる活用（再掲）

- ・ 博物館資料のデジタルアーカイブ化
- ・ デジタルアートの活用促進 等

【その他】 県立文化施設の果たすべき役割の明確化

【現状】

- 県立文化施設の果たすべき役割等について、ビジョンへの記載がない

【課題】

- 本県の文化振興に向けて各施設の果たすべき役割等について、県民にわかりやすく示すことが必要



【改定の方向性】

- 県立文化施設の果たすべき役割等について、次期ビジョンへ明記

次期・高知県文化芸術振興ビジョン 主な改定内容

1 ビジョン名

第2期高知県文化芸術振興ビジョン（仮称）

2 計画期間

令和9年4月～令和19年3月（10年計画・5年で中間改定）

3 基本理念

基本理念「文化芸術の力で心豊かに暮らせる高知県」を継続

○現ビジョンの基本理念の主旨（※）は、網羅的かつ普遍的なものであることから、次期ビジョンにおいても継続

（※）「県民一人ひとりの暮らしの足下に文化芸術があり、多くの県民が自由に、そして主体的に文化芸術活動に参加することで、心豊かに幸せを感じて暮らしていきたいという願いを実現する

4 基本方針

○現ビジョン 基本方針

- | | |
|--------|-----------------------|
| 基本方針 1 | 文化芸術を通じた県民の心の豊かさの向上 |
| 基本方針 2 | 高知の固有の文化の継承及び活用 |
| 基本方針 3 | 県民一人ひとりの文化芸術への参加意識の向上 |
| 基本方針 4 | 文化芸術を活用した地域の振興 |

○次期ビジョン 基本方針

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 基本方針 1 | 文化芸術を身近に感じることができる <u>環境づくり</u> |
| 基本方針 2 | 高知の文化芸術を育む <u>人づくり</u> |
| 基本方針 3 | 文化芸術を活用した <u>地域づくり</u> |

5 数値目標の設定

ビジョン全体を貫く数値目標または基本方針ごとの数値目標の設定を検討

①ビジョン全体を貫く数値目標

- ・(直近1年間に)文化芸術を鑑賞したことがある県民の割合 ●%→●%
- ・(直近1年間に)文化芸術活動を行ったことがある県民の割合 ●%→●%

②基本方針ごとの数値目標

○基本方針1 文化芸術を身近に感じることができる環境づくり

- ・県の取組を通じて、文化芸術に触れた県民の割合 ●%→●%

○基本方針2 高知の文化芸術を育む人づくり

- ・県内主要施設等における文化イベントの開催数 ●→●

○基本方針3 文化芸術を活用した地域づくり

- ・県外観光客入込数 ●人→●人
- ・中山間地域の県内主要施設等における文化イベントの開催数 ●→●

③施策ごとの数値目標

可能な限りアウトカム指標を設定

基本方針及び施策の方向性（案）

基本方針1 文化芸術を身近に感じることができる環境づくり

（1）多様な文化芸術に触れることができる機会の提供

- ① 高知県芸術祭の充実
- ② 県立文化施設の利用促進
- ③ 高知の文化芸術の情報収集及び発信
- ④ 市町村との連携・協働による文化芸術活動のさらなる活性化

（2）民間団体主体の文化芸術活動への支援

- ① 地域の文化芸術活動の振興
- ② 文化振興にかかわる功績への顕彰
- ③ 団体や個人の発表機会のさらなる創出
- ④ 文化芸術振興組織（アーツカウンシル）の充実

（3）文化施設をハブとした取組の推進

- ① 文化施設と地域のさらなる連携・協働の推進
- ② 施設間連携のさらなる促進
- ③ 県立文化施設の利用促進（再掲）

（4）生涯にわたり楽しむことのできる環境づくり

- ① 幼少期から文化芸術に触れる機会の充実
- ② 児童生徒の文化芸術活動の促進
- ③ 高齢者、障がい者の文化芸術活動の促進
- ④ 文化施設等での文化芸術の学びの場の拡充

（5）デジタル技術の活用促進

- ① デジタル技術やメディア等の効果的な活用
- ② 付加価値向上につながるデジタル技術の活用



基本方針2 高知の文化芸術を育む人づくり

（1）文化芸術の振興を担う人材の育成

- ① 文化芸術を担う人材の育成
- ② 伝統芸能の担い手の育成
- ③ 歴史人材の育成
- ④ 文化芸術を産業振興や観光振興に生かせる人材の育成



基本方針3 文化芸術を活用した地域づくり

（1）観光や産業等の振興につながる文化芸術の活用

- ① 文化芸術を活用した観光振興
- ② 高知の文化の国内外への発信
- ③ 「まんが王国・土佐」の推進
- ④ 文化芸術を産業振興や観光振興に生かせる人材の育成（再掲）
- ⑤ 多様な主体によるネットワークの構築

（2）地域に伝わる文化財の保存と継承

- ① 文化財の保存及び活用に関する支援
- ② 高知の食文化の伝承
- ③ 地域歴史文化の支援
- ④ 県史の編さん・活用の推進

（3）地域固有の文化資源の活用

- ① 郷土芸能の保存と伝承
- ② 伝統的工芸品産業等の振興
- ③ 遍路文化の保存と伝承
- ④ 高知の文化芸術の情報収集及び発信（再掲）
- ⑤ 県史の編さん・活用の推進（再掲）

文化芸術振興の推進体制

- ① 文化芸術振興組織（アーツカウンシル）の充実（再掲）
- ② 県立文化施設の果たすべき役割

